

令和5年度和歌山市地域福祉計画推進協議会  
議事要旨

<日 時>令和6年2月2日(金) 14:30~16:00

<場 所>和歌山市あいあいセンター3階 会議室第1・2

1 開会

・協議会の開催に先立ちまして、公募委員の神前委員が残念ながらお亡くなりになられたので、協議会として神前様のご冥福をお祈りして、黙とうを捧げたいと思います。黙とう。

・福祉局長挨拶

本推進協議会での協議を経て、作成された現行の第4次和歌山市地域福祉計画は5年計画として、令和2年の3月に策定され、間もなく改定の時期を迎えることとなる。今年度、来年度の2年間をかけて、次の計画のもととなる基礎調査を行うなど、第5次計画を令和7年3月に策定する予定となっている。

本日は、第4次和歌山市地域福祉計画の進捗管理と第5次和歌山市地域福祉計画の策定について報告させていただき、皆様方から忌憚のないご意見を賜りたい。地域福祉の推進には、地域の方々や関係機関、行政の連携が非常に大切だと考えおてり、ご協力をよろしくお願ひしたい。

・委員の紹介

和歌山市身体障害者連盟会長 畠中常男様

和歌山市障害児者父母の会会長 岩橋 正悟様

和歌山大学経済学部教授 金川 めぐみ様

和歌山市ボランティア連絡協議会会長 坂本 智様

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター所長 鈴木 玲様

公募委員 藺 諸栄様

和歌山市老人クラブ連合会会長 瀧口 幹二様

和歌山市老人福祉施設協議会会長 中谷 幸子様

和歌山市民生委員・児童委員協議会会長 西村 重光様

和歌山市自治会連絡協議会副会長 前島 五十昭様

和歌山市社会福祉協議会副会長 宮本 佳子様

部落解放同盟和歌山市ブロック連絡協議会芦原支部副支部長 山本 昌代様

・欠席委員

和歌山市小学校長会 伊澤 真佐子様

和歌山市医師会会長 野村 康晴様

和歌山市人権委員会副会長 藤並 正己様

和歌山市婦人団体連絡協議会会長 宗 真紀子様

なお、神前委員の後任は公募せず、欠員として対応する。

・会長・副会長の選出

会長：和歌山大学経済学部教授 金川めぐみ様

副会長：和歌山市老人福祉施設協議会会長 中谷幸子様

・会長挨拶

和歌山市の地域福祉計画推進協議会は、次は第5次計画になるが、計画をしっかりと作っていくということと、毎年の進捗管理を、プラン・ドゥ・チェック・アクションをしっかりとまわしていくことがある。最近の厚生労働省の動向として、地域共生社会といわれ、自治体の支援体制として重層的支援体制整備事業が本格化をしていくようにと言われている。私自身は、地域福祉というのは、個性があると思っており、和歌山市の地区性や特性を生かしたしっかりした計画ができればと思っている。

委員の皆様からは、和歌山市の計画を前に進めていくための忌憚のないご意見、ぜひいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いたい。

## 2 議事

### 【事務局】

・次の資料について事務局から説明

(1) 第4次和歌山市地域福祉計画の進捗管理について

資料1-1 第4次和歌山市地域福祉計画について

資料1-2 第4次和歌山市地域福祉計画の推進方法について

資料1-3 地域福祉計画の指標

資料1-4 「実施プラン」について

### 【議長】

ご意見、質問をお受けします。発言される方は挙手をして、氏名を述べていただいた後、発言をお願いしたい。

私の方からちょっとコメントもかねて、幾つかご質問と感想を申し上げさせていただく。

この和歌山市の地域福祉計画は、アクションとして計画を立て、プログラムで先導的に、集中的に取り組みたい事業をやっていくという作りとしてはかなりよくできていると思う。そこで、どういったことを実施するのか、いくつかの論点になるところがある。

私個人的な感想だが、3ページ目に、災害時の話が出ており、皆様もご存じのように、能登で震災が起き、かなり避難の状況で、高齢化が進んでおられ、そして耐震化ができていない古い家が、能登のあたりは多いということで、かなりの避難所が設備されていなかった状況にあるとは報道などでも漏れ聞いている。

例えば、本当に必要な段ボールベッド等が、実際には全然整っておらず、災害関連で余計に高齢者の方が寝たきりになるということも増えていると聞いた。和歌山市は中核市だが、街中で元気な方もいらっしゃる反面、地域によっては高齢化が進んでいる地域もある。こちらには災害時の要支援者の名簿というのがあるが、実際に起こったときの対処を、能登の教訓になるところがあったように思う。そういった情報もとらえ、しっかり対策をしていただければと思っている。それが1点目。

2点目に、重層的支援体制について、進めていただいているというふうに思う。これについてはまだ始まったばかりなので、先進事例を参考にしながら和歌山市でどのように具体的に事業を進めていけるか、しっかり考えていただければと思う。

そこでいろんな力を活用するというところで、1点の質問は、7ページの地域包括支援課の「つれもてサポート事業」という、介護施設でボランティアをしたときに、スタンプに応じて交付金を支給する事業。こちらの現在の人数等と、もしその登録件数等が伸びていなければどのような形で拡大を考えておられるのか。ボランティアの方にはこういった形で報酬をいただけるというのは非常にうれしいことだと思うが、やりがいと自己実現、成長性だと思う。こういうことをやることによって自分自身も社会貢献に繋がったとか成長性に繋がったというのがボランティアの継続の鍵だと思うので、そういったところも考慮しながらされておられるのかという点についても伺いをしたい。これが1点目の質問事項。

あと、資料1-3なんかを見ると、どうしても数値が気になってきますが、私は、こういった数値は、あまり激的に変わるものではないし、コロナのところで上がったたり下がったりのイレギュラーな変化が絶対あると思う。けれど、例えば10年後、15年後に見たように、気が付いたら上がっていた、気が付いたら下がっていた、という状況を長期的に目指すにはどうしたらいいかという指標で、ぜひそれを活用していただければと思う。この資料の中でも、特に和歌山の地域福祉には、ここを強化するところが必要だろうと思ったら積極的にどう上げていける方策、下げていける方策に努めるかということで、ぜひ、3つ目の提案としては、資料1-3の指標というのは、長期的な視野でどういうふうになりたいか、和歌山市がこういう姿に、地域福祉になりたいかということを見据えた判断をお願いしたいと思う。もし激的に上がらなかった、下がらなかったとあって、あまり担当課を責めないであげていただきたいというふうには思っている。私からは以上で質問事項1点ですので、その担当課、お願いできますか。

**【地域包括支援課】**

つれもてサポート事業ですけれども、65歳以上の方が、介護予防を兼ねて、行っている事業。65歳以上の方が介護の施設でボランティアした場合は時間数に応じて、スタンプ押して行って、翌年度に換金するという制度ですが、登録者数については、ここ数年、若干減少してきている。ここ数年、コロナの影響で、施設が受け入れも難しいということで、実際ボランティアに携わってくれた方については、コロナ前に比べては減少してきている。この、ボランティアポイント制度については、見直し等を検討していきたいと考えている。

**【議長】**

見直しの具体的な形とか、方向性はあるのか。

**【地域包括支援課長】**

現在はまだありません。

**【議長】**

やりがいや、意義があることだと思うので、ぜひ登録者数が増えて、持続的にやっていけるような形でご検討お願いしたい。他、何かご意見、ご質問等ございましたら。

**【委員】**

指標の数値の推移ですが、5年ほど、我々も多少関与させていただいて、こういうものを作っていただいて、各担当課の方でご努力いただいていると、いうふうに理解をしておりますが、このどの指標見ても、上がったかなというような指標は、私は感じられない。市民の方は、こういう分野において、和歌山市は向上したなというふうな認識を、あんまり持たれていないのかなと、この数字だけを見ると感じてしまう。やっぱり何か違う新しい切り口の対応を探して、取り組んでいかないと、この数字はこの5年後をみてもほとんど動いていないのではないかと。今後も、こういう会議をやっていただいても、本当の成果はどこまで出るのか、私の素朴な疑問。そこら辺はいかがな見解になるのか。

**【議長】**

はい、大変難しいご質問、でもすごく重要な質問だと思う。

**【高齢者・地域福祉課】**

委員が言われたように、激的に変わっている数字というのはありません。ただ、激的に下がっている数字もないというふうに考えている。これをいかに上げていくかというのは、大変難しい問題ではあるが、これを少しでも上げるように次の計画で、盛り込めるように考えていきたいと考えている。

**【議長】**

他にご質問、ご意見ございますか。

**【委員】**

現場からの意見でちょっとお願いしたい。2ページにある地域福祉の担い手の養成。これが、今一番、和歌山市にとりましても各団体にとりましてもネックになっているのではないかと思う。幅広い地域への周知、そして各住民への意見、そういうことによって、福祉計画というのは、住民が動いてはじめて充実していくのかと思う。

私たち直接住民と関わっておりますが、やはりこういう重層的とか、我が事丸ごととか、国からの言葉で、こういうふうに言って担い手を作ろうとかやっぺいこうとかというやり方では駄目かなと思う。もう少し和歌山市に沿った担い手づくり、こういうのを考えていかれたらどうかと思うのですが。

**【議長】**

はい。こちらは大変重要な、ご質問。

**【高齢者・地域福祉課】**

今おっしゃるように、若者世代のボランティアの興味と申しますか、参加と申しますか、その辺が今後続けていく上では大変重要なことだと認識している。社会福祉協議会さんと一緒に連携をしながら、こういった世代が参加できるような仕組みを作っていかなければいけないと考えているので、今後協力していきながら、そういった世代のボランティアの数を増やしていければと考えている。

**【委員】**

3ページの避難行動の要支援者名簿ですが、あまり実質的なものになっていないのかと

思うところが多い。自分の親がこれをしていたときに、隣の高齢者の人に何かあったときに、支援してもらえるように頼むわ、と言いに来たのが、自分より年下の人で。支援する方が、うちの母で。もう80歳以上だったってところを考えると、この名簿を変えていってもそれが実質的なものなのかと、すごく思うところ。

2週間ほど前に石川県に仕事で行ってきたのですが、高齢者が避難所にずっとまだ残っているというような状況があった。道路と断水が一番大変だったので、なかなか、物資も届きにくかったというのもあるが、段ボールベッド等の物資も地元でどれだけのものを蓄えておくのかを、それぞれ考えていかないと。待っているだけではだめなので。災害のときの物資をどれぐらい、近くに置いておくか、どういうふうな人たちが避難をしないといけないか等をイメージしやすいような、もう1歩踏み込んだ形で、講義、周知をしていかないと、来た人や、希望した人にだけ知らせるというだけではなかなか、対策できないと思う。

今、和歌山は災害がくると言われながらも来ていない状況で、まだ自分のところに災害が起きないと思っている人も多いかと思う。石川県の人たちも、今までにもあったし、こんな大層なことになると思わなかったという人がほとんどだったらしい。

災害が起こった時、和歌山市としての、特徴のある地域性とかを考えた上での計画を立てていってほしいと思う。

**【議長】**

事務局から、いかがか。

**【福祉局長】**

指定避難所は和歌山市の小学校、中学校を中心にして用意しており、基本的には災害用のベッド、食料品等を入れるよう、今順次進めてやっている。その数量を入れたり、入れ替えることもしていると総合防災から聞いている。いただいた意見を伝えて、より数多く、今回、能登の方も、結果的に災害が大きく避難所自体が被災してしまったということで、結局使える避難所へ皆さんが偏ってしまったというふうなことも聞いている。100いくつか避難所を用意しているが、避難物資の方も、確かな数をできる限り集めるような形で、私からも、防災の方に伝えますので、よろしく願いしたい。

**【議長】**

はい。ではつづいて、議事2について事務局から説明をお願いいたします。

## 【事務局】

次の資料について事務局から説明。

### (2) 第5次和歌山市地域福祉計画の策定について

資料2-1 地域福祉計画について

資料2-2 和歌山市の現状（統計データ）

資料2-3 和歌山市の現状（アンケートデータ）

資料3-1 第5次和歌山市地域福祉計画策定に向けて

資料3-2 アンケート調査（案）について

## 【議長】

第5次計画に向けてちょっと盛りだくさんの内容を説明させていただいた。大きく分けて3つで、和歌山市の現況を把握してもらおうというのが資料2なので、こちらは皆さん持ち帰っていただき、和歌山市の様々なデータはこんな感じだなっていうのを見ていただければと思う。

資料の3の、特に2の方が、各種アンケート。和歌山市の地域福祉の計画としては、和歌山市の規模だからこそできるのかと思う。世論調査等、各福祉関係者等、小学生アンケート、小学生を対象として5年生を予定している。それは、この委員に入っている小学校の校長先生が、地区のことを学ばれるのがちょうど5年のときだというふうにおっしゃっていて、それをちょっと汎用して地区に関心を持っているときにやろうじゃないかということでこの年代に設定をしている。

そして最後は、いわゆる地区の懇談会市民会議ですが、こちらはもう日程調整でき次第委員の皆様方にお知らせしますので、ぜひ委員の皆様方、最寄りの地区、最寄りの地区じゃなくても全地区に出ていただいてもいいんですけども、関心持って出ていただければなというふうに思っている。このような概要になっている。何かご質問等、ございますか。

## 【委員】

アンケートの案の18ページの利用者向けのアンケートですが、問10の1で1から6まで、2が7から15までということでそれぞれ列挙されていますが、これ以外にも、何か利用しているものをアンケートで把握するということもいるのかなと思い、その他というのを作ってもいいのではと感じた。

もう一つ、21ページの子供向けのアンケートですが、対象の年齢が小さい子供でしたらふりがながいるのではと思う。

22ページのところで、問1で「あなたは放課後何をして過ごすことが多いですか」という質問の回答が1から7となっているが、7その他のところに、（ ）で内容も書いてもら

ったらいいのではということを使った。

26ページの間13の「あなたはどのようなボランティア活動したことがありますか」というところで、6の「近所のごみ拾いをする活動」という選択肢ですが、近所ではないがゴミ拾い活動に参加する場合もあると思うので、この「近所の」というのがいるのかなと思った。

最後に6ページに戻り、プログラムCと真ん中にかこみのある生活困窮者への支援の推進、この2行目に、「生活困窮者自立支援」の取り組みというのが、これは何かで定義されているものなのかどうか。概念的なものなのかどうかちょっとお聞きしたい。以上になります。

#### 【議長】

生活困窮者自立支援の概念はちょっと書かれておかれる方がいいかもしれない。あとの部分で、ちょっと付け加えるところや、事務局としてちょっとどう考えるかも、今お答えできるのであれば、教えていただければ。

#### 【事務局】

委員のからご指摘を受けた部分について、18ページ間10、22ページの間1、26ページの間13、概念的なものを入れといた方がとよいという内容ですが、すべて反映させるように、委託会社と調整して進めて参りたいと考えている。

#### 【議長】

提案していただいたものを反映させていくということで、ちょっとどのような形で処理させていただくかを私と事務局に一任いただければと思う。他、お気づきの点ありましたら。

#### 【委員】

この調査対象者ですが、これは、自治会は入らないのか。これは市民のほうに入るのか。アンケートいろいろ見ても、一番よくわかっている自治会長が対象に入っていないのは何か意味があるのか。

#### 【事務局】

自治会の方というのは団体としてとらえているわけではなく、世論調査の一般市民とし



てとらえさせていただいて、こちらの中に含まれているという解釈をしている。

【議長】

よろしいですか。

【委員】

正確にとらえられるのは自治会だと思う。各種団体もあるが、活動していない団体もありますし。本当にこのアンケート調査の正確な情報を取りたかったら自治会長さんに聞いたらわかりやすい内容が多いと思ひまして。

【議長】

なるほど。ちょっとそういった視点もありますので、持ち帰り検討させていただいて、少しどうゆうふうにしていくかも含めて、考えさせていただければと。事務局それでいいですか。

【事務局】

はい。結構です。

【議長】

他お気づきの点があれば。

【委員】

先ほどから見せていただいて、アンケートを見ると、この雛形は全国で決まっているのか。アンケート項目というか、書き方は。

【議長】

このアンケート項目は、4次計画も3次計画を作るときにやっている。基本それを雛形にして新しい状況を入れたりしている。

**【委員】**

前の比較というがあるので、これを変えるのは、今回はなかなか難しいと思うが、結果を求めてアンケートをしているのに、例えば4ページの、そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない、わからない。

どちらとも言えない、わからないと、同じようなことを書き入れてしまうと、絶対ここが多くなって、聞きたいことがわからなくなる。であれば、その次の5ページにあるように、積極的に取り組んでいる、少しは取り組んでいる、あまり取り組んでいない、全く取り組んでいない、このように右と左に分かれて書かれるような、アンケートのとり方をしないと、絶対真ん中もしくは一番右にいつてしまう。そういう結果を求めてのアンケートではないと思うので、項目をできたら外したほうがいいのではないか。

**【議長】**

これは少し工夫の余地はあるとは思う。ここの部分で、選択肢が変わっているけれども一応参考程度に、前はこうです、次はこうですっていうふうに、統計上そういう手法もあるので。一応委員が、確かにおっしゃることそうだと思いますので、これもちょっと持ち帰りさせていただいて検討させていただくという形で、事務局よろしいですか

**【事務局】**

はい。

**【議長】**

その形にさせていただきたいと思う。他お気づきの点何かございますか。

**【委員】**

資料3、各地域での会議を思いきって10か所から5か所に、狭めたのは何か理由があるのか。会議を広く呼びかけてたくさんになると、小さい意見が出にくくなるようなことはないのかと。思い切って半分にしてしまったというのは何か理由があるのか。

**【議長】**

これは事務局もこの間、悩んでおられることも含めてお話しいただいた方がいいかもしれませんね。申し上げにくければ、私のほうから申し上げると、今年はコンサルがすごく忙

しくてなかなか入札ができなかった。介護保険の計画があったので、どこものコンサルも仕事がいっぱい。

それで予定していた金額と、いろいろなものの高騰費を含めて、オーバーをしているという状況で、コンサルと協議をしたときに、10ヶ所で維持するのが難しくなったというのが正直なところというふうに私は事務局から聞いていますがそういう理解でよろしいですか。

**【事務局】**

はい、そうです。

**【議長】**

ちょっとやむを得ない策で。本来は10ヶ所でやりたかったのですがというところ。

この地区懇談会の開催については、少しテーブルを細かく刻んで話しやすいような雰囲気もあるかなあというようなところでちょっと事務局と検討させていただいているところということで。補足は何か事務局からありますか。

**【事務局】**

ありません。

**【委員】**

アンケート調査案のところで、④に民生委員・児童委員が約800人とあるが、正確には731人で、丸めて書くなら700人と訂正と書いていただきたいと思う。

**【議長】**

そのように訂正いたしたいと思う。

では、議題2は以上とさせていただき、議題の3その他について、皆さんにマイクをまわしますので、発言をお願いしたい。

**【委員】**

先ほどからもいろいろと話題になっていた、大地震ですが、大地震のときに、今回の場合、非常に問題になっていたのは、避難所そのものがダメージを受けたということ。和歌山市の

場合も、大体小学校や中学校とか、こういう学校などの設備が利用されている場合が多いが、立地条件もやっぱりその地域によって様々だと思う。それぞれの避難所の安全性っていうのは、十分、調べておられると思う。例えば海に近いところとか、川に近いところとか、かえって避難所へいったらその避難所が危なかったっていうのが今回の場合なんかもあったようだ。その辺がちょっと心配。

それと、一次避難所から二次避難所への移動っていうのがなかなか大変だったようだ。能登の方っていうのはかなり奥の方ですから、道路事情やその他いろいろ、半島上の問題点があったかと思うが。和歌山の場合は一応紀伊半島だが、和歌山の紀伊半島の方がより幅広いし、道路も一応、一本だけではなく、何本かあり、問題は少なからうとは思っている。

またその地震の規模やその性質とか、いろいろあると思う。いわゆる物資の輸送や、避難所の移動とか、そういうあたり、考えていても起こって見ないとわからないと感じるところもあると思うが、やはりやっぱり考えに考えを重ねないと、いけないと思うので、その辺のところ、再検討お願いできたらなというふうに考えている。

#### 【委員】

このような調査票を作っていく中で、皆さんがすごくサラサラとたくさん意見が出るのがすごいなと思って、まず聞いておりました。例えば、防災の話が少し出ていたので、私たちのところでも障害者の方の障害者児どちらもですが、災害があったときの避難のことについて、昨年度からずっとBCPというものが始まるということもあって、検討し続けるところ。

地域に住んでいる障害のある方、ご自宅でお住まいの方たちの避難するときの場所等、支援の内容というのがなかなかこういう大きなアンケートの中では反映されづらいところも実際にはあるのかなとは思いつつ、ただすべてそこまで拾い上げるのもなかなか難しいことだろうなっていうところを思いながら、それでも大きなところでやっぱりこういうことを考えながら作っていくことがとても大切だなと思った。また何かあったらいろいろと教えていただけたら。

#### 【委員】

私自身もずっと労災病院のボランティアをやっているが、あそこの地域も2階以上は、水に浸かると言われている。病院は避難場所ではないので、そこへは入ってこれない。そういう意味で、今回のことで、すごく他人事ではない感覚を、皆さん持っているのも、ぜひ防災について、地域にいろんな教育や指導、そういうのを本当に積極的に和歌山市もしていただきたいなと思っている。

**【委員】**

資料1-3の地域福祉計画の指標の、アクション2で、相談したり助けてもらえる人が身近にいると思っている市民の割合、これが令和3年が83.3%で、4年が88%。身近にいないと感じているのは10.3%。数字を見ると指標がすごく伸びていて高い割合で、身近に助けってもらえると思っているという結果になっている。ここの部分、この10.3%のところをすごく注目する。ここで声が出せない人が孤立して、悲惨な事件が起きたりするの、この10.3%のところを守っていくということがセーフティーネットにつながっていくのではないかと、そのように感じた次第。

**【委員】**

私から1点質問させていただきます。アンケート調査の件ですが、平成30年のアンケート調査した際のその他の自由回答で、市民からどのようなフィードバックコメントがあったのか。それらをもとに今回のアンケート調査は反映したのか。お伺いしたい。

**【議長】**

過去のものもあるのでちょっと資料を見てみないとわからないというところもあるかもしれませんね。今、事務局でちょっと用意できるものがあれば、もし、そうでなければその旨でいただけますか。

**【事務局】**

すいません。その他の回答は、現在持ち合わせておらず、後日取りまとめ回答させていただきます。

**【委員】**

先ほど委員が質問されたこととちょっと重複しますが、1-3の資料のところ、満足しているというのが、低いなあと感じる。やっぱり何か構造的なところがあるかなと思うので、マンネリ的な進め方ではなくて、やっぱりこれは何とかしていかなきゃいかんというような形に、検討していかないと。

それともう1つ、市民参加の理解呼びかけという言葉がいくつか出てきたのですが、私、老人会の会長をさせていただいている。和歌山市は、1万1,000人ちょっと切るぐらい。いろんな市民団体に呼びかけをするのであれば、老人会もそうですが、毎年会員が減ってい

る。1つの団体で何か行事をやるのは、ボランティアでもそうですが、なかなかできない。できたら老人会、社会福祉協議会、PTAにも声をかけましたっていうような格好の共同の応援体制というか、市民の声かけというのをやってもらったら、より活動が活発になるのかなと思う。

#### 【委員】

先ほど委員から能登の地震の話が出たが、病院は避難所じゃないっていうことは皆さんわかっているみたいだが、やはり1月1日午後4時っていう時間で、煌々と電気がついている病院に皆さんが避難してしまったという、あれを見ていてそのあとに言った意見が、市とか県とかの職員の移動がなかったと。中で働いている医師や看護師達がちょっと疲弊してしまったという話を聞いていて、うちも、中小ですけれども病院をやっていますし、福祉施設もやっておりますが、やはり自家発電があるので、煌々と灯が付いていて、あそこだったら大丈夫っていうことで、多分、皆さん集まってくると思う。

そこである程度は、用意しているが、どこの施設も特に、私たちの協議会の会員さんの施設は大体、入所者の方たちの5日ぐらいは用意しているが、そこによその方たちが来てしまうと、多分3日ぐらいしかもたないのではと思う。

福祉避難所という形である程度、何日間は引き受けることはできるが、途中からはやはり、和歌山市の職員の人たちで、避難所への移動ということをやったり考えていただかないと、皆さん自分たちで手いっぱい、そこまでできる人がいないとを、この間の地震の時に感じた。それはぜひ担当を決めて、移動の方をしていただけたらと思う。

あともう1つ、心配なのはその避難所が大体小学校中学校の体育館になっているということで、電気の備蓄というか発電、自家発電っていう形はどのようになっているのか。

#### 【地域安全課長】

緊急用ということで、手動で動かす自家発電機は置いているが、実際それだけでは、まだ足りない部分もあるかと思う。協定とか、民間の事業の力を得ながら、早急にそれを手配していくと、そういう形になる。

#### 【委員】

この資料を見せていただいて、資料2-2の中で、人口の推移や世帯数など、いくつかの表があるが、あるものは令和2年、あるものは令和5年と。この辺は出していただくときに、もうちょっと調整、合わせるというか、例えば5ページ、3ページ。

**【議長】**

ちょっと事務局が言いづらいかもしれないので補足して申し上げます。実は、国勢調査の大規模調査が5年に1回ないので、最新の数字がここしかないということです。

**【委員】**

だから最新の数値を使ったらいいのでは。5ページの数字を。

**【議長】**

そうですね。5ページは住民基本台帳からの引用です。

**【委員】。**

すごく差がありすぎるので、現状認識を危うくする気がする。そういうことをちょっと苦言で申しわけないですが。

それともう1つは、3ページの、核家族化の数字をみていると、すごいスピードで進んでいるように思う。数字で見ると、平成27年で2.36、その次は令和2年で2.26と、あまり差はないように見えるが、世帯数の推移が、逆にすごく増えている。だからその辺を踏まえた形でも、ある方面での施策っていうのは考えていけないと感じたので、発言させてもらった。以上です。

**【委員】**

自治会としまして、これを機会に防災を大きく見直すことを重点に置いていきます。

**【委員】**

社会福祉協議会、そして地区社会福祉協議会の活動としまして、やはりこういうデータも大事だが、これからの活動計画書をもっとしっかり立てていただきたいと思う。というのは、有功地区では、地域活性化活動協議会を立上げている。中学生、小学生、そして各種団体、地域住民、すべて含めてやっている。そういう中で、子供たちからの防災の意見が出ている。今度、中学生の子供たちが座長となって、有功地区ではどこが危ないか、子供たちの目線で見えた地域の危ないところを調べたり、各種団体を巻き込んだ地域での取り組み、こういうのをどんどん進めていく地域が、もっと増えていただけるよう、行政の方としてもしっかり指導していただける体制を作っていただきたいと思う。

でも、ここへ行ったらここ、こっち行ったらあっちのような縦割りじゃなく、横繋がりをしっかりして行政のバックアップを是非期待したいと思う。

それとまちづくり事業だが、今だんだんなくなってきて、わが事がなくなり重層的になり、となってきた場合、私たち直接地域に関わるものとしては、とても理解しにくいものがある。国の施策のやり方は、地域、ましてや和歌山市の高齢地域のところにちょっと、通用していただきたいものですが、机上の空論に終わりそうと思いますので、ぜひもっと、和歌山市に沿った、行政のあり方、そして連携を取っていただく。これはいつもお願いしている。もっと横繋がり、連携をしっかりお願いしたい。

#### 【議長】

補足しておきますと、有功の地域づくり協議会は面白い。小学校、中学校を、舞台にして、本当に中学生の子が発言すると、みんな大人は気にかかり、中学生こう言っているのだからと、地域が盛り上がるので、すごくいい例だなと思う。ぜひ、そういったこともうまく広げながらお願いしたい。

#### 【委員】

うちの地区は、小学校のクラスがすごく減ってきている。そういう意味でも、若い方とどいういった形で取り組んでいくか、今後すごく大事なところかなと思う。

いろんなまちづくりの方法あるかと思うが、今言われた有功地区の事例紹介をしていただいて、それが自分のところのまちで、いろんな施設や商業施設も全部含めた中で、どうしていくと活性化していくのか、それを全部できての地域福祉ということになるのではないか。地域福祉は、みんなで地域でどういうふうに住らして行って、豊かになっていくかっていうことを考えていく、そのための計画じゃないのかなと思うので、よろしくお願いしたい。

#### 【委員】

ちょっと補足させてください。先日、地区社協の研修会を42地区会長対象にさせていた。その時に講師先生の話や自分たちの意見の中から、各地域に合った活動を進め、地域資源をどんどん活用する、そういう方向で地区社協はこれから進めていこうじゃないかという、研修をさせていただいている。皆さんのご協力をぜひお願いしたい。

#### 【議長】

ありがとうございます。委員の皆様から、本当に叱咤激励というか、厳しいお言葉もあつ



たかもしれないが、和歌山市がどのような形でみんなが住みよい、住んでよかったと思えるような町にできるかを一生懸命考えて出た皆さんからのお言葉だと思うので、ぜひ持ち帰っていただいてよろしく願いできればと思う。

では議事すべて終了。

### 3 閉会